

(8) 肺がん患者における Benefit Finding の内容とその獲得に関連する要因

川崎医療福祉大学大学院保健看護学専攻 ○前田 智樹
川崎医療福祉大学保健看護学科 竹田 恵子

【要旨】

本研究では、肺がん患者が獲得した Benefit Finding (以下 BF とする) の内容とその獲得に関連する要因を明らかにすることを目的とした。BF とは、がんなどの逆境体験から見出す肯定的な変化のことである。入院中、および外来通院中の肺がん患者9名を対象に半構成的面接を行い、質的記述的に分析した。

BF の内容について、《自分の人生と向き合えるようになった》、《自分の身体をいたわろうと思うようになった》、《健康でいるための行動をとるようになった》、《感謝の気持ちが深まった》、《他者のことを気に掛けるようになった》、《物事への向き合い方が前向きに変化した》、《家族からのいたわりを感じるようになった》、《がんに関する知識が増えた》という8つのカテゴリーが抽出された。

上記の BF を獲得する際に関連する要因について、《大切に思ってくれる人がいること》、《今もこれからも元気でいられること》、《果たすべき役

割があること》、《辛い現実と向き合ったこと》、《自分の死が近い将来にあることの理解》、《信頼できる医師がいること》、《人生に満足していること》という7つのカテゴリーが抽出された。

肺がんの特徴として、5年生存率が他のがんと比較して低いことが挙げられる。予後不良である肺がんに罹患したという逆境体験の中から、《自分の人生と向き合えるようになった》というカテゴリーの下位概念である、《今後の人生ですべきことは何かと考えることができた》、《自らの死について現実的に考えられるようになった》という BF を獲得できたことには、《自分の死が近い将来にあることの理解》をした上で、痛みなどの苦痛症状がなく《今を元気で過ごせていること》が大きく寄与していると考えられた。

実践への示唆として、肺がん患者が《今を元気に過ごせている》と感じられるように苦痛症状を可能な限り取り除くことで、BF を獲得しやすい状況を整えられる可能性が考えられた。